

－佐賀県総合計画2019－

人を大切に、 世界に誇れる佐賀づくりプラン

概要版

令和元年7月 政策部

計画の構成

序章 はじめに

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間

第1章 今後の社会の変化

- 1 時代の潮流
- 2 佐賀県の特徴

第2章 基本理念と佐賀県の目指す将来像

第3章 佐賀県の施策

- 1 分野ごとの施策
- 2 分野横断的な施策

第4章 計画推進の基本姿勢

序章：はじめに

1 計画策定の趣旨

「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」

今、時代は大きく変わろうとしています。そして、そうした動きはわれわれ佐賀県にとって大きな飛躍のチャンスとなっています。グローバル・ボーダレス化の中でヒトやモノが世界を行き交い、東アジアの交流や交易も活発化しています。また、IoT、ロボット、AI、ビッグデータ等の技術革新が進み、こうした技術を活用した「Society5.0」の実現に向けた取組が進展しつつあります。

地理的に見ても、アジアが成長し日本の軸足が東日本から大陸に近い九州へと移ろうとしている中で、佐賀県は、九州の中でも中心に近く、大陸にも近い優位な場所にあります。そして、福岡都市圏に近く、可住地面積率が高く、人口密度は全国16位です。そして、何よりも幕末から明治維新にかけて、ヒトづくりやモノづくりでこの国を牽引してきた歴史を持っています。その頃、「日本は佐賀を見ていた、佐賀は世界を見ていた」のです。

さらに、高度経済成長期とは様相が変わり、人の想いや置かれている状況も多様化し、田園地域の価値や文化的価値が大切になってきました。葉隠、伊万里・有田焼、佐賀牛、佐賀海苔など世界に誇るべき「和」の文化、歴史、伝統、食を有し、三夜待や生産組合など、元来人と人の結びつきが強く、豊かな地域力を持っている佐賀県にとって、その潜在力を発揮する環境が整ってきたものと確信しています。

序章：はじめに

そうした時代を切り開いていく中で、大切なものは県民の力、県民の志です。去年は明治維新150年でした。「肥前さが幕末維新博覧会」では県民に未来への勇気や連携を、そして子どもたちの志への種を蒔くことができました。さらに、県外に佐賀県の志を広げ、佐賀県の誇りや勢いを示すこともできました。

今後、「2019さが総文」、九州新幹線西九州ルート開業、2023年の「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」など、佐賀が高く羽ばたくチャンスが到来します。

私たちが育んできた佐賀の真の豊かさ、素晴らしさを磨き上げ、多くの人々が佐賀を訪れ、人と人が出会う「交流」を生み出すことで、佐賀発展の原動力としていきます。

また、様々な災害が続く中でも、人々の命や川・大地・海へと連なる豊かな暮らしを守るため、その基となる「山」を大切にしていまいります。

今般、「さかの未来を語ろう2018」をはじめ、分野や地域を問わず様々な場面で、県民の皆さまから伺った御意見を踏まえ、「－佐賀県総合計画2019－ 人を大切に、世界に誇れる佐賀づくりプラン」を創り上げました。

「志」を原点に、「人」をすべての政策の基軸におき、真摯に、ひたすらに、そしてまっすぐに、佐賀の飛躍を目指す。

まさに、「佐賀の時代」を皆様と共に創ってまいります。

佐賀県知事 山口 祥義

序章：はじめに

2 計画の位置付け

この計画は、佐賀の目指す将来（10年後）の姿を見据え、その実現に必要な4年間の県の方策を明らかにするものです。

また、県が県民やCSO、企業、市町等とともに協働して取り組んでいくための共通の指針となるものです。

併せて、社会経済情勢の変化等に適切に対応していくため、毎年度実施するマネジメントサイクルにより計画を見直しや新たな取組等の企画立案を行い、それを計画に反映させていく「進化型の総合計画」とします。

なお、本計画は、

- 「まち・ひと・しごと創生法」第9条に基づく佐賀県のまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画
- 「佐賀県知的財産の創造等に関する基本条例」第4条第2項に基づく基本構想
- 「教育基本法」第17条第2項に基づく佐賀県における教育の振興のための施策に関する基本的な計画

とします。

3 計画の期間

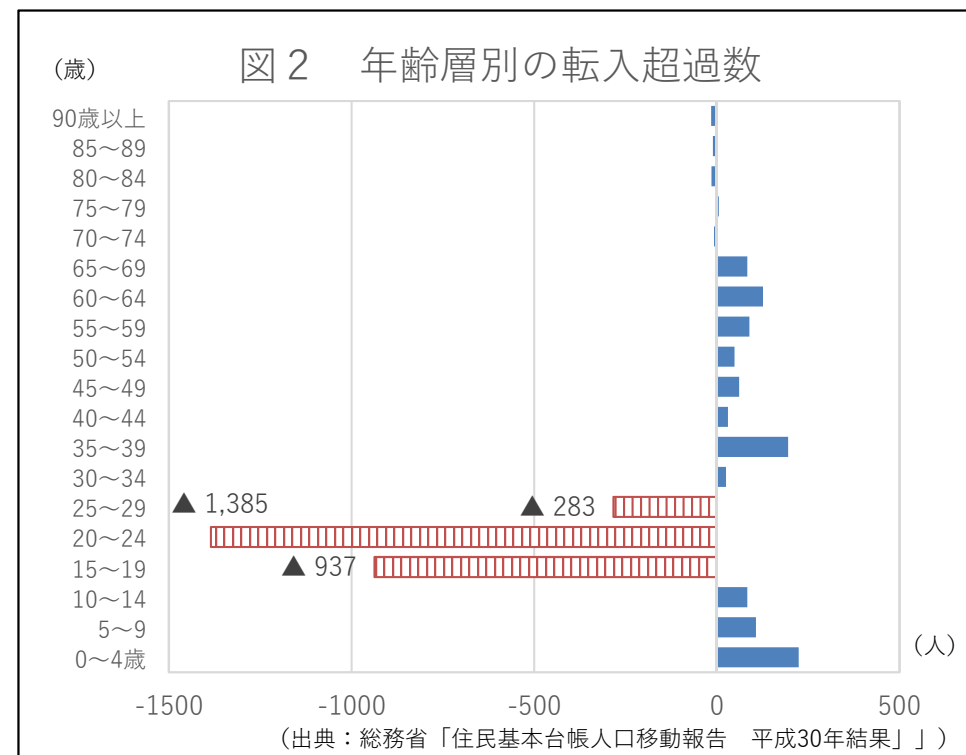
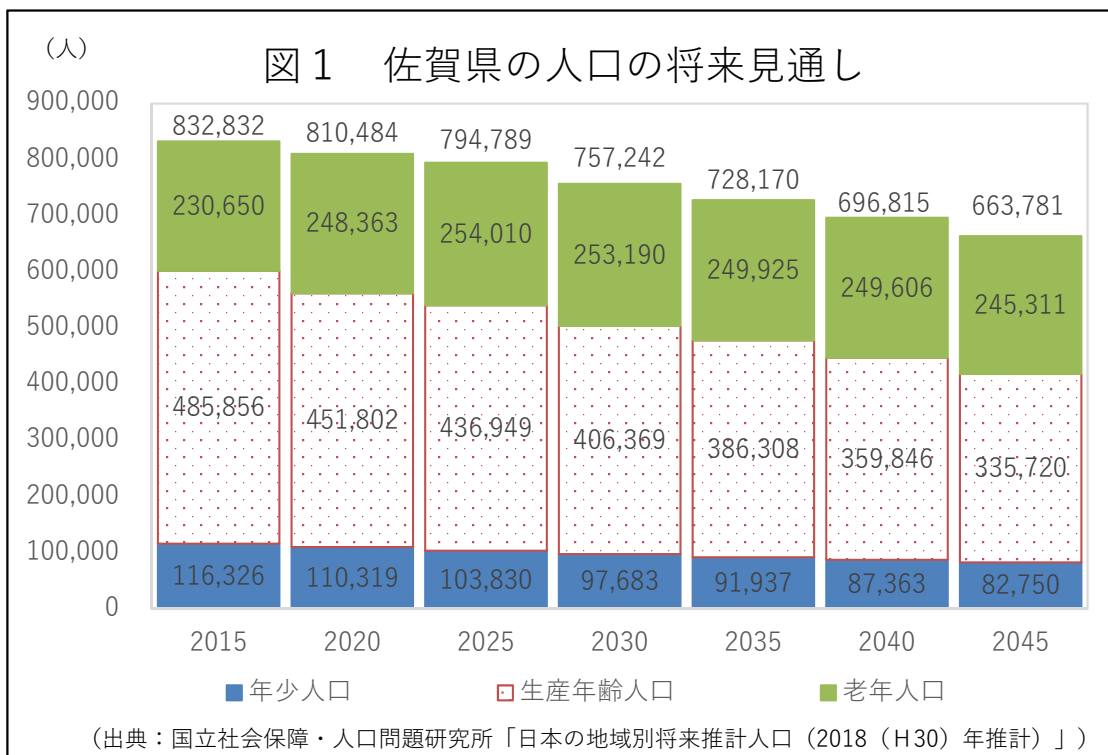
4年間（2019（令和元）年度から2022（令和4）年度）

第1章：今後の社会の変化

1 時代の潮流

(1) 人口変動

- 本県においても、人口減少と少子高齢化が一層進むことが見込まれます（図1）。
- 15～29歳の年齢層の県外への転出超過により、人口減少と少子高齢化に拍車がかかる可能性があります（図2）。
- 在留外国人は増加傾向で、外国人技能実習制度の見直しなどにより、今後さらなる増加が見込まれます。



第1章：今後の社会の変化

1 時代の潮流

(2) 経済環境の変化

- AIやロボット、IoT等の新技術を活用した新たなサービスの創出や生産性の向上が見込まれます。
- 佐賀を訪れる外国人が急増しており、今後も当面増加することが見込まれます。
- 外国との経済連携の進展により、海外進出のハードルが低下し、輸出に取り組む県内企業の増加が見込まれます。
- 県内の様々な産業分野において、労働力が不足することが見込まれます。

(3) 生活環境の変化

- 短時間に集中した降雨の増加などにより、災害が頻発化・激甚化する傾向にあります。
- 高齢者を支える生産年齢人口が相対的に減少するため、社会保障制度を支える現役世代の負担が増加することが懸念されます。
- AIやロボット、IoT等の新技術を活用した製品やサービス等の実用化が進むことが見込まれます。

第1章：今後の社会の変化

2 佐賀県の特徴

(1) 地理的・地勢的特徴

- ・ 東アジア諸国に近接
- ・ 県東部地域は、鉄道や高速道路など、九州の陸上交通のクロスポイント
- ・ 九州の中核都市である福岡市に近接
- ・ 玄界灘と有明海という、異なる特徴を持つ2つの海
- ・ 緑豊かな天山・脊振山系や多良岳山系、肥沃な佐賀平野 など

(2) 豊かな歴史・文化

- ・ 吉野ヶ里遺跡をはじめ、日本を代表する貴重な文化財が存在
- ・ 全国に誇る多彩な地域文化が根付き、地域で伝承
- ・ 明治維新时期に先駆的な役割を果たしてきた歴史 など

(3) 多様な産業

- ・ 豊かな自然の恵みを受けた農業や水産業が盛ん
- ・ 陶磁器産業や家具産業、製薬業といった特色ある地域産業が存在 など

(4) 人の絆

- ・ 三夜待等の風習や消防団員の組織率が高いなど、人や地域の絆が強い など

(5) 今後について

- ・ 2019さが総文（第43回全国高等学校総合文化祭）の開催
- ・ 東京2020大会（オリンピック・パラリンピック）の開催
- ・ 九州新幹線西九州ルートの開業
- ・ SAGAサンライズパークの整備
- ・ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催 など

第2章：基本理念と佐賀県の目指す将来像

県政を進めていくためには、人に寄り添い、人と対話し、これまで受け継がれてきた人の「想い」を感じ取りながら、次の世代へ繋げていくことが大切です。また、佐賀には、連綿と続く歴史や文化、地域の絆、農林水産品、陶磁器など、「本物」の地域資源があります。これらの“佐賀らしさ”の価値を私たち自身が再認識するとともに、世界に自信を持って誇れる佐賀をつくっていきたいという想いを込め、「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を引き続き基本理念に掲げます。

基本
理念

人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり

1 安全・安心の暮らしさが

4 豊かさ好循環の産業さが

2 楽しい子育て・あふれる人財さが

さが創生
さがデザイン

5 文化・スポーツ・観光の交流拠点さが

3 人・社会・自然が結び合う生活さが

6 自発の地域づくりさが

- 基本理念に掲げる佐賀を目指すため、6本の政策の柱をおき、政策を推進していきます。
- 政策の推進に当たっては、
 - ・ 雇用や新しいひとの流れ、子育てしたいと思ってもらえる環境、時代に向き合う地域社会を創り出す「さが創生」
 - ・ 人の暮らし、まち・地域を心地よくし、豊かなものにする「さがデザイン」の2つの視点を入れて、取り組んでいきます。
- また、国際社会全体の目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識しながら取り組んでいきます。

第2章：基本理念と佐賀県の目指す将来像

1 安全・安心の暮らしさが

県民の命や豊かな暮らしの礎である「山」を守るなど、自然災害等を未然に防止する対策が進むとともに、県民全体で事故や犯罪等の防止に取り組んでいる。また、それらが発生した場合でも、人と人との強い結びつきを背景に、全国一位の高い組織率を誇る消防団活動や、迅速かつ的確に対応できる体制の整備と不断の見直し等により、被害の拡大を防止する対策が進んでいる。こうしたことにより、県民が安心して暮らしている。

2 楽しい子育て・あふれる人財さが

田園地域の価値や文化的な価値などの“佐賀らしい”価値を活かし、子育てし大県“さが”プロジェクトの取組が進み、子育て世代の移住者が増加するとともに、安心して子どもを産み、楽しく育てることができている。また、県民の多様な個性・能力が培われるとともに、佐賀への誇りを胸に、佐賀や世界で活躍する「志」を持った骨太な子どもが育っている。

3 人・社会・自然が結び合う生活さが

年齢、性別、障害のあるなし等に関わらず誰もが、社会で活躍し、住み慣れた地域の中で多様な人々の想いに寄り添いながら、思いやりをもって行動している。また、森・川・海とつながる豊かな自然環境の中で、いきいきと暮らしている。さらに、若い頃からの予防対策も含め、がん等の疾病予防が進み、県民が健康的に暮らしている。

4 豊かさ好循環の産業さが

起業・創業や企業立地、イノベーションによる産業の創出が進み、佐賀で働き、佐賀で活躍することができている。また、幕末維新期の日本をけん引してきた歴史を持つものづくり産業をはじめとする地域の産業が持続的に発展し、佐賀段階などで全国に名を馳せた農林水産業が活性化するとともに、佐賀牛や有田焼などの佐賀の誇るべき県産品の販路が国内外に拡大している。

5 文化・スポーツ・観光の交流拠点さが

佐賀の「和」の文化、歴史、伝統などの魅力が世界に発信され、東アジアや福岡都市圏に近いという地理的特性を活かし、国内外からの交流人口が増えるとともに、訪れる方が心地よく感じるまちづくり・地域づくりが浸透している。また、県民の誰もが文化やスポーツに親しみ、楽しむ風土が形成され、地域内外の人と人がつながる「交流」の拠点となっている。

6 自発の地域づくりさが

快適なまちづくりが進むとともに、「山」が大切にされ、中山間地域や過疎地域、離島等にも元気があふれている。また、地域間や国内外との人・物・情報の交流が盛んになるとともに、元来の地域力を生かし、誰もが様々な形で参加しながら自発的な地域づくりが進んでいる。

第3章 – 1 : 分野ごとの施策

この章では、基本理念及び佐賀県の目指す将来像を踏まえた施策を網羅的に展開するため、行政分野を25の施策分野に分け、政策の柱に沿って体系化します。併せて、それぞれの施策ごとに、「目指す将来像」、「課題・対応」、「取組方針」、「指標」を示します。

施 策 体 系	1 安全・安心の暮らし さが (施策分野) 防災・減災・県土保全、くらしの安全・安心
	2 楽しい子育て・あふれる人財 さが (施策分野) 子育て、教育、生涯学習
	3 人・社会・自然が結び合う生活 さが (施策分野) 福祉、健康、医療、環境、人権・共生
	4 豊かさ好循環の産業 さが (施策分野) 雇用・労働、農業、林業、水産業、企業立地・商工業、エネルギー、流通、情報発信
	5 文化・スポーツ・観光の交流拠点 さが (施策分野) 文化、スポーツ、観光
	6 自発の地域づくり さが (施策分野) 地域づくり、交通、県民協働、国際化

第3章 – 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
1 安全・安心のくらし さが	防災・減災・ 国土保全	防災・減災等の体制づくり
		玄海原子力発電所の安全対策
		治水対策の推進
		土砂災害防止対策の推進
		海岸保全対策の推進
		農地を潤すクリークやため池の防災・保全の推進
		道路の防災対策の推進
		建築物の耐震化の推進
	くらしの安全・安心	交通安全対策の推進
		犯罪の起きにくいまちづくりと犯罪被害者等支援の充実
		消費生活の安定向上
		食品等の安全・安心の確保
		生活衛生対策等の推進
		水資源の安定確保の推進



関連するSDGsの目標



第3章 - 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
2 楽しい子育て・あふれる人財さが	子育て	結婚や出産の希望が叶う環境づくり
		子ども・若者を支え育てる環境づくり
		配慮が必要な子ども・若者や家庭に寄り添う環境づくり
	教育	志を高める教育の推進
		確かな学力を育む教育の推進
		豊かな心を育む教育の推進
		健やかな体を育む教育の推進
		多様なニーズに対応した教育の推進
		教育を支える人材の育成と環境の整備
		私立学校の魅力づくり
		高等教育機関の充実
	生涯学習	ライフステージに応じたまなびの環境づくり



関連するSDGsの目標



第3章 - 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
3 人・社会・自然が結び合う生活 さが	福祉	住民とともに支える地域福祉の充実
		高齢者福祉の充実
		障害者福祉の充実
		障害者の就労支援
	健康	生涯を通じた健康づくりの推進
		がん対策の強化
		感染症対策の強化
		難病対策の充実
	医療	医療提供体制の充実
		安全有効な医薬品等の安定供給の推進
		国民健康保険制度の運営の安定



関連するSDGsの目標 ※次スライドの施策も含む



第3章 – 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
3 人・社会・自然が結び合う生活 さが	環境	地球温暖化対策の推進
		生活環境の保全
		自然環境の保全・継承
		有明海の再生
		多様な森林（もり）・緑づくり
		廃棄物の減量化・リサイクルと適正処理の推進
	人権・共生	県民一人ひとりの人権が尊重される差別のない社会の実現
		男女共同参画社会づくり
		さがすたいるの推進



第3章 - 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
4 豊かさ好循環の産業さが	雇用・労働	佐賀の産業を支える人材の確保と労働環境の整備
	農業	稼げる農業の確立
		活力ある農村の実現
	林業	魅力ある林業と活力ある木材産業の展開
	水産業	玄海・有明海における活力ある水産業の展開



関連するSDGsの目標 ※次スライドの施策も含む



第3章 - 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
4 豊かさ好循環の産業さが	企業立地・商工業	企業誘致の推進
		テクノロジーと起業・創業を通じたイノベーションの推進
		ものづくり産業の振興
		中小企業の持続的発展に向けた支援
		地域資源を活用した産業の振興
	エネルギー	再生可能エネルギー等先進県の実現
	流通	佐賀県産品の国内外での販売促進
	情報発信	地域資源の魅力創出・発信



第3章 – 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
5 文化・スポーツ・観光の交流拠点 さが	文化	多彩な文化芸術の振興
		豊かな文化・歴史の継承と魅力発信
	スポーツ	トップアスリートの育成と地域が元気になるスポーツの推進
	観光	魅力ある観光地域づくり



関連するSDGsの目標



第3章 - 1 : 分野ごとの施策

政策の柱	施策分野	施策名
6 自発の地域づくり さが	地域づくり	自発の地域づくりの推進
		快適で暮らしやすいまちづくり
		美しい景観づくり
	交通	幹線道路ネットワークの整備
		暮らしに身近な道路の整備
		地域における多様な移動手段の確保
		鉄道による交流の促進
		九州佐賀国際空港の発展
		唐津港・伊万里港等の利活用及び機能強化の推進
	県民協働	多様な主体による協働社会づくり
	国際化	世界と行き交う佐賀づくり



関連するSDGsの目標



第3章－2：分野横断的な施策

この章では、社会課題や県民ニーズ等に対して第3章－1で示した分野を跨いで総合的に取り組むべき施策について、それぞれの施策ごとに「目指す将来像」、「課題・対応」、「取組方針」、「指標」を示します。

佐賀で輝く未来の創造

歩くライフスタイルの創造

子育てし大県“さが”の推進

SAGAスポーツピラミッド構想の推進

県民の命を守る取組の推進（交通安全対策、がん対策）

森川海人っプロジェクトの推進

交流拠点“さが”の推進

分野横断的な施策の概要

～佐賀で輝く未来の創造～

(目指す将来像)

佐賀で働きたいと思う若者が増え、その能力を十分に発揮しながら、地域経済の担い手として活躍している。

(課題・対応)

佐賀県では、少子高齢化の進展に伴う生産年齢人口の減少に加え、男女ともに15～24歳が就職や進学等を機に県外へ転出し大幅な転出超過が続いており、若者の県外流出は地域の活力に関わる大きな問題となっています。

こうした中、地域経済の担い手を確保していくためには、若者が意欲的に働ける場を増やしていくとともに佐賀への誇りや愛着を持ち、将来は佐賀で働きたいと思う若者を増やしていくことが必要です。

そのためには、生産性の向上や付加価値の高いモノやサービスの創出を図るとともに処遇の改善や労働環境の整備など、企業の魅力を向上していくことが重要です。

加えて、IT関連企業をはじめ、佐賀県の成長を牽引するような企業を誘致し、若者にとって魅力的な就業機会を創出することや、価値ある経営資源を有する事業を継承することで、働く場を確保していくことも重要です。

また、教育現場における郷土学習の充実とともに、保護者も含め県内企業や産業について知ってもらい、県内企業と教育機関との間で若者に対してきめ細やかに就業の選択肢を提案できる関係を築くことが必要です。

(取組)

- ・企業の生産性向上や新たなビジネスの創出
- ・中小企業支援
- ・ものづくり産業の振興
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・企業誘致の推進
- ・円滑な事業承継の推進
- ・郷土学習の推進
- ・県内企業と教育機関一体となった若者の県内就職の促進 など

分野横断的な施策の概要

～歩くライフスタイルの創造～

(目指す将来像)

住民や佐賀を訪れる方が積極的に地域やまちなかを歩いており、人的交流が盛んになることで、地域のコミュニティ保持やまちの賑わい創出など、地域の活性化につながっている。

住民が積極的に歩くことで、住民個人の健康や幸福感といった生活の質の向上につながっている。

多様な移動手段が、地域の実情に応じた持続可能な形で確保されており、人的交流の活発化や住民の外出促進に寄与している。

(課題・対応)

佐賀県においては、移動に自家用車を利用することが多く、住民が日常的に歩く機会が少ないほか、佐賀を訪れる方が過ごしやすく、楽しみながら歩くことができる環境が十分ではありません。

このため、住民や佐賀を訪れる方が積極的に歩きたくなるような仕掛けづくりや環境づくりを行い、将来にわたって交流が盛んで魅力のある地域となるよう、「人」が主役の歩く社会づくり、歩きたくなるまちづくりを推進します。

(取組)

- ・ 徒歩や自転車、公共交通での移動を積極的に選択してもらうための仕掛けづくり
- ・ 歩道等の整備やまちなかの魅力向上といった、人が歩ける、そして歩きたくなる環境づくり など

分野横断的な施策の概要

～子育てし大県“さが”の推進～

(目指す将来像)

誰もが安心して楽しみながら子育てができ、次世代を担う子どもたちが骨太で健やかに成長している。

(課題・対応)

佐賀県における出生数は、全国と同様に減少傾向にあり、少子化に歯止めがかからない状況であるものの、平均初婚年齢が若く、合計特殊出生率や14歳以下の年少人口比率が全国上位に位置していることは本県の特徴です。

この特徴を生かしながら、「佐賀で子育てがしたい」、「子育てが楽しい」と思ってもらえる環境や社会にしていくためには、「結婚したい」、「子どもが欲しい」といった希望が叶えられるための支援や、子育て支援の充実、配慮が必要な子ども・若者や家庭への支援、仕事と家庭・地域のバランスが取れたライフスタイルの実現など、出会いから結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を行っていく必要があります。

また、次世代を担う子どもたちが様々な体験を積み、自分の考えで判断・行動できる人材に成長するよう、佐賀県の豊かな自然や歴史、みんなで助け合う県民性や土地柄、地域のコミュニティを活かし、学校、自治体、企業、CSOなど地域の関係機関が連携して支援していくことも必要です。

(取組)

- ・結婚を希望する人を応援する機運の醸成 ・妊娠・出産・育児支援 ・保育士、放課後児童支援員等の確保
- ・幼稚園教諭などの人材育成 ・障害児対応等の保育サービスの充実 ・子どもたちが骨太で健やかに学び育つ環境づくり
- ・児童虐待の発生予防、早期発見 ・家庭的養護の推進 ・ひとり親家庭支援 ・小児慢性特定疾病児童とその家族への支援
- ・ニート・ひきこもり支援 ・女性の活躍推進と男性の意識改革 ・ワーク・ライフ・バランスの推進 など

分野横断的な施策の概要

～SAGAスポーツピラミッド構想の推進～

(目指す将来像)

佐賀県で育ったトップアスリートが世界大会、全国大会で活躍し、県民にとって誇りとなるとともに、県外へ転出したアスリート、指導者が佐賀県へ戻り、さらに次世代のアスリート育成に結びつく好循環が生まれている。

その好循環が、スポーツを「する、育てる、観る、支える」の各分野に、多くの県民が何かしらの形でかかわっているスポーツ文化の拡大に結び付き、その裾野の拡大が、さらなるトップアスリート育成の良き土壌となっている。

(課題・対応)

スポーツは、「する」人の人格育成や、「観る、支える」人に夢、希望、感動をもたらすなど人づくりに与える効果や、地元強豪校・チームや地元ゆかりのアスリートの活躍が地域のブランド価値を高めるなど地域づくりに与える効果もあるなど、様々なチカラを持っています。

このスポーツが持つチカラを活かした地域づくりに取り組むことは、佐賀県の未来にとって重要です。

しかしながら、現状では、強豪校・強豪チームが少なく、育成環境が整っておらず、有望な選手の県外流出が進んでいます。

このため、SSP構想基本方針（2018年9月策定）に沿って、県内における育成体制の確立、アスリート・指導者の就職支援・佐賀定着、練習環境の充実の3分野一体となった取組を展開する必要があります。

2023（令和5）年に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を念頭に取組を加速させ、佐賀で育成されたアスリートの活躍に県民が感動し、誇りに思うことで、さらなる次世代のアスリート育成に向けた好循環を創る必要があります。

(取組)

・有望選手の育成 ・アスリートへの競技力向上・キャリア支援 ・アスリート・指導者への就職支援 ・練習環境の充実

分野横断的な施策の概要

～県民の命を守る取組の推進～

①交通安全対策の推進

(目指す将来像)

県民一人ひとりの交通安全意識が高まり、交通事故が少ない安全・安心な社会となっている。

(課題・対応)

佐賀県の人口10万人当たりの人身交通事故発生件数は、依然としてワーストレベルであり、発生件数を少なくするためには、約半数を占める追突事故や、割合が高い高齢者事故への対策が喫緊の課題です。

県民の交通ルールやマナーに対する意識が低いことや交差点事故が多いことから、道路管理者や警察などが連携して、道路環境整備や啓発活動などに取り組み、交通安全に対する県民の意識を変えていく必要があります。

また、歩道がない道路や歩道が狭い道路が多く残っており、誰もが安心・快適に移動できるように、今後も道路管理者及び警察が連携して、歩道整備や交通安全対策を推進していく必要があります。

(取組)

- ・ 県民の交通安全意識の高揚 ・ 路面表示（カラー化や横断歩道）などのハード整備と注意喚起・啓発などのソフト対策
- ・ 交通事故の実態分析に基づく交通指導取締り ・ 通学路合同点検における要対策箇所の整備

分野横断的な施策の概要

～県民の命を守る取組の推進～

②がん対策の強化

(目指す将来像)

県民ががんをはじめとする生活習慣病の予防に努め、がんになりにくい生活を送っているとともに、定期的にがん検診を受診している。

また、がんになっても、早期に適切な治療を受けることができ、療養生活と社会生活を両立している。

(課題・対応)

我が国では2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなるとされており、佐賀県でもがんは県民の疾病による死亡の最大の原因となっています。がんの罹患者数や死亡者数を減少させるため、避けられるがんを防ぐとともに、がんの早期発見・早期治療を促進する必要があります。

特に、佐賀県では肝がんの死亡率（粗死亡率）が19年連続で全国ワーストであることから、肝がんの主な原因であるウイルス性肝炎などの肝疾患対策を更に進めることが必要です。

また、女性のがん（乳がん、子宮がん）の死亡率は全国ワースト上位を推移しており、40歳前後が罹患のピークであることから、働き盛りの女性や主婦層のがん検診受診を促進するなど女性のがん対策が必要です。

がん患者とその家族は、身体的及び精神的な苦痛のほか、仕事と治療の両立が困難等の社会的苦痛も抱えていることから、苦痛を軽減するとともに、がんになっても安心して暮らせる社会の構築が必要です。

(取組)

・がん検診の受診率向上 ・肝炎ウイルス検査・定期検査の受診促進 ・女性のがん対策の推進 ・仕事と治療の両立支援 など

分野横断的な施策の概要

～森川海人っ（もりかわかいと）プロジェクトの推進～

（目指す将来像）

県民が「森・川・海はひとつ」との意識を持ち、佐賀の豊かな自然を未来につなげるため、森・川・海を保全するために行動している。

（課題・対応）

私たちの暮らしは、豊かな自然に恵まれ森・川・海がもたらす恩恵に支えられていますが、近年、集中豪雨等の異常気象が頻発化する中、森・川・海においては、荒廃森林の増加、洪水被害の多発化・激甚化や海域環境の悪化などの多くの問題が発生しています。

特に、山は、平野部の人々の暮らしを支え、海へ恩恵をもたらす源流であることから、山の環境を保全することが必要です。

このため、「森川海人っ（もりかわかいと）プロジェクト」に取組み、森・川・海のつながりや管理の重要性などについて「森・川・海はひとつ」として県民に広げ、県民一人一人の意識醸成や保全行動につなげるとともに、それぞれの役割に応じた県民協働による森・川・海の適切な管理や保全を進める必要があります。

（取組）

- ・環境保全意識の醸成
- ・県民協働による災害に強い多様な森林（もり）づくり
- ・県民協働による河川環境等の保全
- ・県民協働による海域環境の保全と水産資源の回復

分野横断的な施策の概要

～交流拠点“さが”の推進～

(目指す将来像)

県民がふるさとへの誇りと愛着を持って訪れる人を迎え入れることで、訪れる人が心地よく感じるまちづくり・地域づくりが進むとともに、人・モノの交流が促進され、地域の活力が生まれている。

(課題・対応)

アジアが成長し、日本の基軸が東日本から大陸に近い九州へ移ろうとしている中、九州佐賀国際空港の利用者数、伊万里港のコンテナ貨物取扱量、唐津港へのクルーズ船の寄港数が増えるなど、九州におけるゲートウェイとしての佐賀県の役割が高まっており、さらには九州新幹線西九州ルートの開業、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催などの“さが躍動”の好機を迎えます。

このような好機を佐賀県の発展につなげるには、住む人だけでなく訪れる人にも楽しんでもらうことを意識し、来訪者等に選ばれ続けるよう地域における「魅力づくり」や「受入環境の充実」、「情報発信」とそのための地域の担い手の育成が必要です。

また、SAGAサンライズパークなどの新たな交流を生み出す拠点づくりや駅等からの二次交通の拡充、空港や港湾といった拠点施設の機能強化や地域と地域を結ぶ交通ネットワークの強化など、ソフト事業とハード整備の効果を相まって発揮させていくことが重要です。

(取組)

- ・地域資源の磨き上げによる「魅力づくり」 ・多言語化や決済等の利便性の向上といった「受入環境の充実」
- ・国や地域等で異なる嗜好を踏まえた「情報発信」 ・路線数や便数の更なる拡充と空港施設の機能強化
- ・駅と目的地をつなぐ二次交通等の拡充 ・港湾の利便性向上と港湾施設の機能強化 ・SAGAサンライズパークの整備
- ・広域幹線道路ネットワークの整備 など

第4章：計画推進の基本姿勢

佐賀県庁の存在意義は、県民一人ひとりの幸せの向上であり、その目的を達成するため、現行の制度やルール等について、県民のためになっているか、現場の実態と乖離がないか等を常に意識し、県民目線で議論を行うとともに、透明で信頼される県政を推進します。

こうした考えの下、

- 『**現場**』：現場の人の思いが実現され、人が現場で輝いていること
- 『**ミッション**』：本来の目的を忘れることなく、何のためにやっているのかという目的意識を常に持って行動すること
- 『**プロセス**』：政策や事業を決定していく場合、県民の声を聴き、そして県民と議論を重ねることで信頼関係をつくること

を県政運営のキーワードとして、そこから導かれる以下の基本姿勢に基づき、本計画を推進します。

1 県民と地域が主役の佐賀づくり

- (1) 県民と地域が主役
- (2) 市町との連携

2 県民から信頼される県庁づくり

- (1) 人が中心の県政
- (2) コンプライアンス
- (3) 危機管理体制

3 行財政運営

- (1) 効果的かつ効率的な行政運営
- (2) 安定的かつ弾力的な財政運営